

## SEAFDEC トロール混獲防止プロジェクトと 漁獲過程に関する基礎実験

° 有元貴文(海洋大)・T. Amornpiyakrit・  
B. Chokesanguan(東南アジア漁業開発センター 訓練部局)

**【目的】** 東南アジア漁業開発センターは 1996 年より「責任ある漁業」を域内に定着させるための積極的な事業展開を進めており、トロールでの海亀混獲防除、そして幼稚魚混獲防除のための装置開発と、域内での技術導入を継続してきた。さらに、FAO との連携のもとで技術普及のための事業も始まっている。この間の経緯を紹介するとともに、2003 年度に海洋大で実施したトロール混獲防除装置に関する基礎実験の結果を報告する。

**【方法】** 1997 年に始まった海亀混獲防除装置に関する事業をもとに、1998 年に幼稚魚混獲防除装置 (JTEDs) としてタイ湾でのエビトロールによる操業実験を開始し、2000 年にブルネイ、2001 年にヴェトナム、マレーシア、2002 年にインドネシア、2003 年にフィリピンと域内各国で技術導入と普及のための事業を展開してきた。そこで、JTEDs を取り付けた際のコッドエンドの挙動について回流水槽での観察を行うとともに、クルマエビを用いて漁具回避に関する水槽実験を実施した。

**【結果】** フィリピンで使用したトロールのコッドエンドと JTEDs を回流水槽に設置し、流速段階別に漁具形状を比較するとともに、漁獲物を想定したダミーを用いて装置前方での蓄積状況とコッドエンド奥部への移動状況を観察し、これをもとに、コッドエンドに JTEDs を取り付ける際の方法について検討した。また、接近する網地、並びに金属格子に対するクルマエビの行動を水槽内で観察した。全体に反応は活発ではなく、接触直前または直後に僅かに反応するケースが多かった。その際、跳躍あるいは遊泳による逃避の例は少なかったものの、特に頭部方向からの接近に対して逃避行動の割合が高かった。金属格子に対しては、格子間隔が十分に大きい場合には、格子に対して反応しないままに通過する状況が多く観察された。